

SAITAMA CITY HOSPITAL

# さいたま市立病院



## 市長挨拶

さいたま市立病院は、昭和28年9月に浦和市立伝染病院として開設以来、平成元年11月には総合病院として運用を開始し、平成13年5月にさいたま市立病院と名称変更を行い、60年以上にわたり地域の基幹病院として運営してまいりました。

その間、平成3年4月には、厚生省地域医療連携推進モデル事業として地元医師会のご協力をいただきながらの病診連携の開始や、平成13年10月の地域周産期母子医療センターの併設、平成19年1月には地域がん診療連携拠点病院の指定を受け、平成29年10月には地域医療支援病院として承認されました。また、第二次救急医療施設として救急医療の対応などを行い、地域の医療機関と密接な連携を保ちながら、市民の皆様の病院として、安心・安全の確保に努めてきたところです。

新病院を建築するにあたり、救急医療の充実や急性期医療機能の向上、地域がん診療連携拠点病院としての更なる充実、周産期・小児医療の強化や感染症への対応、地域連携の機能強化、災害拠点病院としての機能整備等、医療機能の強化及び療養環境の向上を図り、市民の皆様が可能な限り地域で必要な医療を受けることができる「地域完結型医療の要」としての役割を実現すべく整備を進めてまいりました。

今後も、さいたま市立病院は、政令指定都市さいたま市が運営する唯一の市立病院として、さらに市民の皆様から信頼される病院を目指し、皆様の健康保持に必要な質の高い医療を提供すべく努力し続けてまいります。皆様方におかれましては、なお一層のご理解とご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。



市長 清水 勇人

### PHILOSOPHY

## 理 念

患者さんを尊重し、信頼される病院を目指す。

科学的根拠に基づいた質の高い医療を提供する。

地域の基幹病院として各医療機関との連携に努める。

### POLICY

## 基本方針

- 患者さんの権利を尊重した医療を提供する。
- 急性期医療を中心に高度な医療を提供する。
- 救急、周産期母子、がん医療を積極的に推進する。
- 地域の病診連携を積極的に推進する。
- 高い技術と豊かな人間性をもつ医療人の育成に努める。
- 自治体病院として経営の健全化に努める。

## 院長挨拶



院長 窪地 淳

基本設計から約6年の時を経て、新病院建設は令和元年9月末に無事竣工いたしました。現病院の老朽化・狭隘化によって影響を受けていた当院の療養環境及び労働環境はこの建て替えで改善され、医療サービスの質が向上するものと大いに期待しているところです。

病院の建設に際して、さいたま市立病院が安心して暮らせるさいたま市のシンボルとして、高度な医療を提供し、市民の皆様にとって安心・安全な地域社会を構築すること、すなわち国から自治体病院に求められている民間では担えない高度急性期・急性期の医療や不採算部門などの医療を提供し、市民の皆様のニーズに応え、市民の皆様がさいたま医療圏で充実した医療を受けられるよう、その一役を担うべく医療機能の整備を行うことといたしました。

主な整備の内容は、①救急医療の充実、②急性期医療の強化、③放射線部門、特に放射線治療の強化、化学療法室の拡充や緩和ケア病棟の新設などがん医療の充実、④外来から産科、新生児、小児科まで同一階に集め成育母子医療センター（院内名称）として効率的に一連の管理ができる体制への整備、⑤精神科身体合併症病棟の新設、⑥感染症対策としての感染外来、陰圧個室や感染症患者専用のエレベーターの設置、⑦病棟での看護師の動線の短縮化による労働環境の改善など、今後、当院が果たさなければならない役割を担うために必要となる機能を整備しました。

現在、全国的に、少子高齢化に伴う人口減少に端を発し地域医療構想、医師の働き方改革、医師の偏在など解決しなければならない多くの課題が山積し、現時点では今後の医療提供体制がどの方向に落ち着こうとしているのか全く見通しのつかない状況ですが、各病院には地域での役割を明確にすることが求められており、我々にとりましても新病院の完成によってその基盤ができたものと考えています。病院経営が益々厳しくなっていく医療環境ではありますが、地域に必要とされる機能の整備を継続し、地域に根差し市民の皆様は今以上に信頼される病院にならなければならないと、職員一同決意を新たにしているところです。

今後とも引き続き、ご指導ご鞭撻の程何卒宜しくお願い申し上げます。

## HISTORY 沿 革

昭和28年	9月 1日	浦和市立伝染病院 診療開始
昭和28年	11月14日	浦和市立結核療養所開設
昭和43年	10月21日	浦和市立結核療養所を浦和市立北宿病院に名称を変更
昭和47年	7月 1日	浦和市立北宿病院を浦和市立病院に名称を変更
平成元年	11月 1日	総合病院として運用開始
平成3年	4月 1日	開放床開設、病診連携室設置 (厚生省地域医療連携推進モデル事業)
平成4年	4月 1日	臨床研修指定病院に認定
平成11年	4月 1日	第二種感染症指定医療機関の指定
平成11年	11月16日	県内公立病院初のトリアージ訓練を実施
平成13年	5月 1日	さいたま市立病院に名称変更
平成13年	11月 1日	地域周産期母子医療センターの認定
平成15年	11月30日	さいたま市立病院開設50周年記念式典挙行
平成19年	1月31日	地域がん診療連携拠点病院の指定
平成19年	2月 8日	災害拠点病院の認定
平成25年	6月20日	平成25年度自治体立優良病院両協議会会長表彰受賞
平成26年	6月19日	平成26年度自治体立優良病院総務大臣表彰受賞
平成29年	10月25日	地域医療支援病院の名称使用の承認
令和元年	12月29日	さいたま市立病院新病院（本館・別館）開院



# 重症救急患者の受入体制拡充、 さいたま市救急医療体制のさらなる充実

現在当院は二次救急医療機関に位置付けられております。専門医が診断・トリアージ（重症度判定）と初期治療を行い、その後の専門治療は臨床各科が引き継ぐ「ER型」の医療体制により対応しています。新病院では、重症救急患者の受け入れが可能となる救急病床を20床新設しました。



## 2018年度 地区別救急受入患者数（延べ）

	地区名	患者数	割合
1	緑区	5,970人	30.7%
2	浦和区	4,601人	23.7%
3	南区	2,496人	12.8%
4	見沼区	2,139人	11.0%
5	岩槻区	675人	3.5%
6	中央区	459人	2.4%
7	桜区	438人	2.3%
8	大宮区	390人	2.0%
9	北区	307人	1.6%
10	西区	158人	0.8%
	市外	1,798人	9.3%
	<b>総計</b>	<b>19,431人</b>	<b>100%</b>



救急外来受付



救急外来 初療室

緊急手術にも対応できる3床の初療室を備え、初療室にX線撮影室とCT室を設置しました。また、救急病床20床（ICU6床・HCU14床）を救急科で管理し、各診療科と連携して重症・重篤な傷病者の全身管理を行います。

# 急性期医療機能の強化、 地域がん診療連携拠点病院としての整備

当院は、地域がん診療連携拠点病院として指定されており、専門的ながん医療の提供、がん診療の地域連携協力体制の構築、がん患者・家族に対する相談支援及び情報提供等を行っています。

## 手術室

手術室の増室、放射線治療の整備、化学療法室の拡充等による集学的治療の充実を図ります。臨床工学部門と透析部門、手術部門、ICU、HCUのワンフロア化により、高度集中治療機能の連携強化や迅速・確実な滅菌器材搬送、医療機器管理の効率化を図ります。



緩和ケア病棟

苦痛緩和のための緩和ケア病棟（20床）を新設します。  
がん患者さんやご家族の相談室やがんサロンを整備します。



サイバーナイフ

X線を使った放射線治療機器の一種で、腫瘍にピンポイントで照射することに特化した装置です。



ダビンチ

内視鏡下手術を支援するロボットです。患者さんの負担が少ない内視鏡下手術の特徴と人間以上に繊細なロボットの動きを併せ持っています。



Image courtesy of Varian Medical Systems, Inc. All rights reserved.

リニアック

「Linear accelerator リニアック」は、日本語では「直線加速器」といわれ、主に癌の治療に使われる放射線治療機器です。

## 24時間体制でハイリスク妊婦から、胎児異常、新生児、母体救急まで一貫した高度な周産期医療の提供

当院の地域周産期母子医療センターでは、妊娠中から入院を必要とするハイリスク妊婦、早産等で産まれた新生児を管理するための高度な医療設備を整備しています。また、地域の医療機関と連携しながら、母体搬送や新生児搬送の受け入れを行い、妊産婦から新生児へと一貫した成育母子医療センターとしての高度な医療を提供しています。



周産期センター外来

地域周産期母子医療センター（産科病棟（分娩室・陣痛室・周産期手術室）、NICU、GCU、外来等）と小児病棟のワンフロア化による機能連携強化を図ります。



陣痛室

陣痛室・胎児モニタリング室を拡充します。



新生児室



ファミリールーム

赤ちゃんご家族がご自宅での生活をイメージして過ごすための部屋です。



# 利便性を考慮した機能整備・療養環境の向上

- 感染外来の新設、感染専用エレベーターの設置  
※感染外来と感染・結核病棟と直結した専用エレベーターを設置し、一般患者とは隔離し、感染症への対応を強化します。
- 陰圧個室の増室  
※陰圧個室とは室内を陰圧にすることにより隔離し、病原菌を封じ込めて、他へ汚染が広まるのを防止します。
- 免震構造の採用
- 非常用発電機の容量拡張
- 変電所からの電気引き込みを2系統に変更
- 地下水による飲料及び生活用水の確保
- アメニティやプライバシーに配慮した施設整備
- ユニバーサルデザインによる施設整備
- 業務の効率化を図る搬送システムの導入（トレイライナー）



感染外来受付



病室（特別室）6階



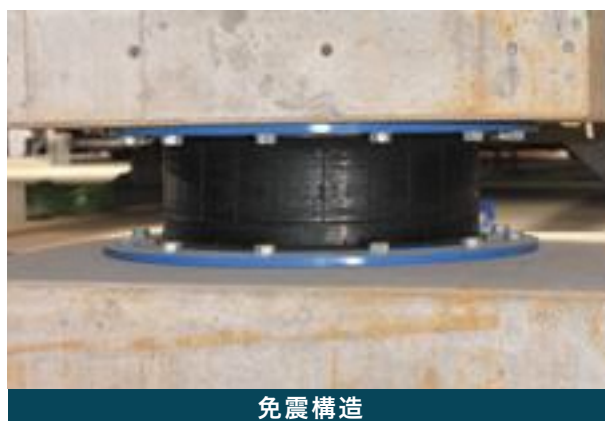
病棟スタッフステーション／6・7・8階



病室（4人部屋）／6・7・8階



搬送システム



免震構造

# 市民から信頼され、 安心して暮らせるさいたま市のシンボル

**敷地面積** 48,789.18㎡

**建築面積** 9,012.39㎡

**階数** 病院本館 地上10階  
別館 地上3階

## 標榜診療科

内科・消化器内科・精神科・脳神経内科・循環器内科・小児科・新生児内科・外科・消化器外科・血管外科・呼吸器外科・整形外科・リハビリテーション科・脳神経外科・心臓血管外科・小児外科・皮膚科・形成外科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・歯科口腔外科・放射線診断科・放射線治療科・麻酔科・救急科・病理診断科・緩和ケア内科

**許可病床数** 637床



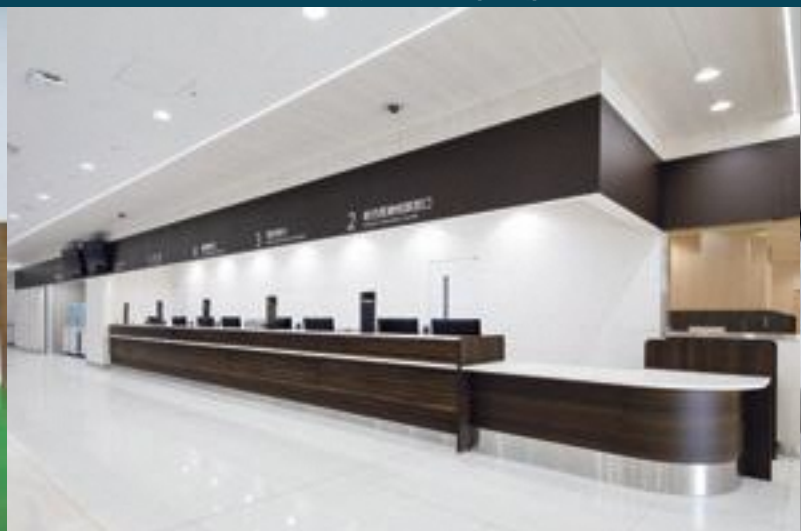
エントランス (1階)



患者支援センター (1階)



キッズルーム (1階)



外来受付 (1階)



## フロアマップ

| スロープ棟 |

病院本館

| 別館 |

10 F	機械室	
9 F	一般病棟 (緩和)、機械室、レストラン、屋上庭園	
8 F	一般病棟 (感染症棟 結核病棟)、精神病棟、一般病棟	
7 F	一般病棟、無菌室、開放病床	
6 F	一般病棟	
5 F	一般病棟 (小児科)、周産期センター外来、NICU・GCU、分娩、一般病棟 (産科)	
4 F	透析、臨床工学部門・中央材料室、手術、HCU、ICU	
3 F	管理、医局、講堂、外来、リハビリ、化学療法、売店	管理
2 F	栄養管理、薬剤、外来、検体検査、生理検査	管理
1 F	災害備蓄倉庫 一般病棟 (救急)、救急、ICU、感染外来、エントランス、患者支援センター、内視鏡、放射線診断、カフェ、キッズルーム	放射線治療/核医学



診察室 (2・3階)



外来待合室 (2・3階)



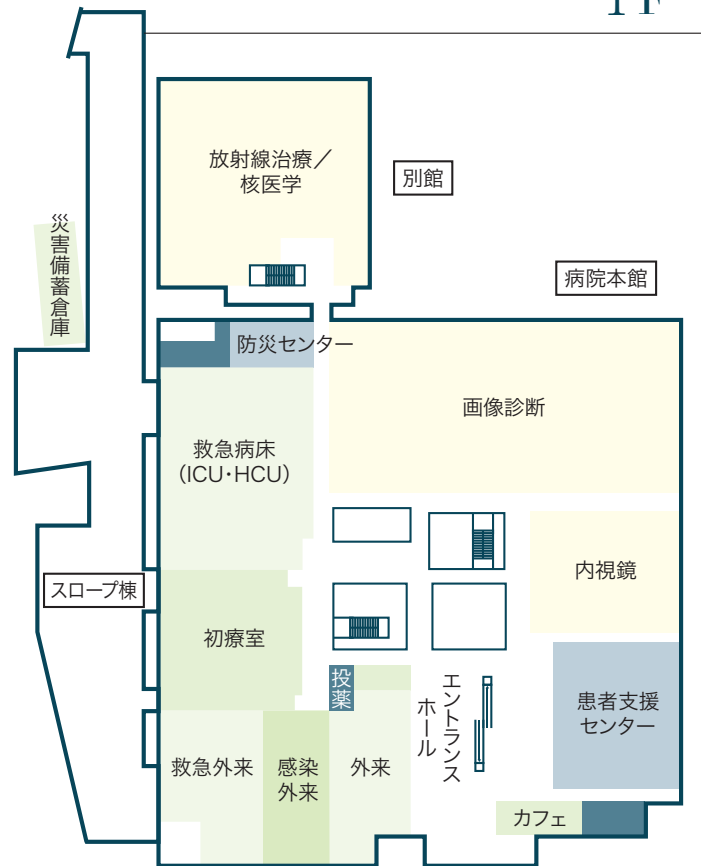
外来待合室 (2・3階)



アセンブリーホール (3階 講堂)

フロアマップ (1~3階)

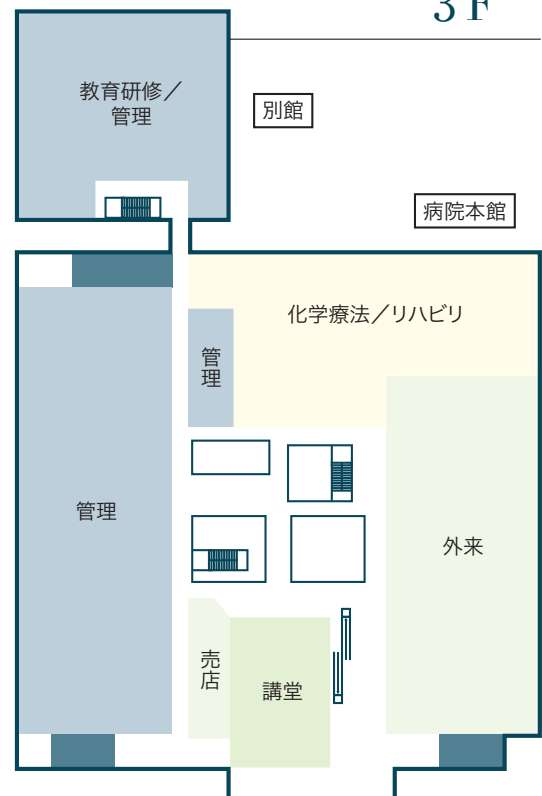
1F



2F

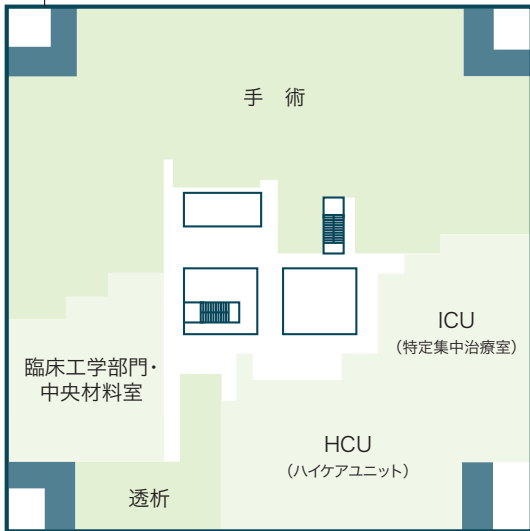


3F

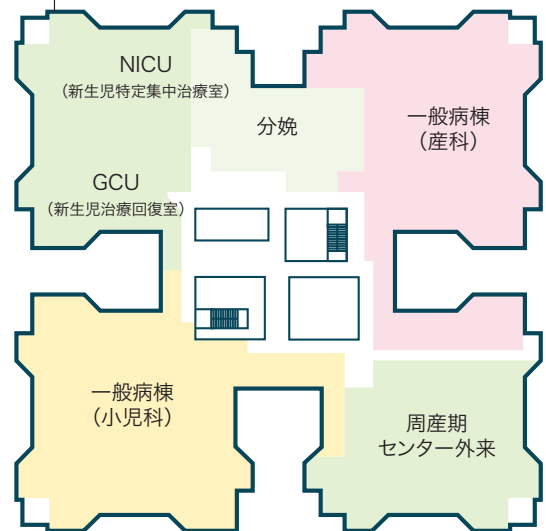


フロアマップ (4～9階)

4F



5F



6F 7F 8F



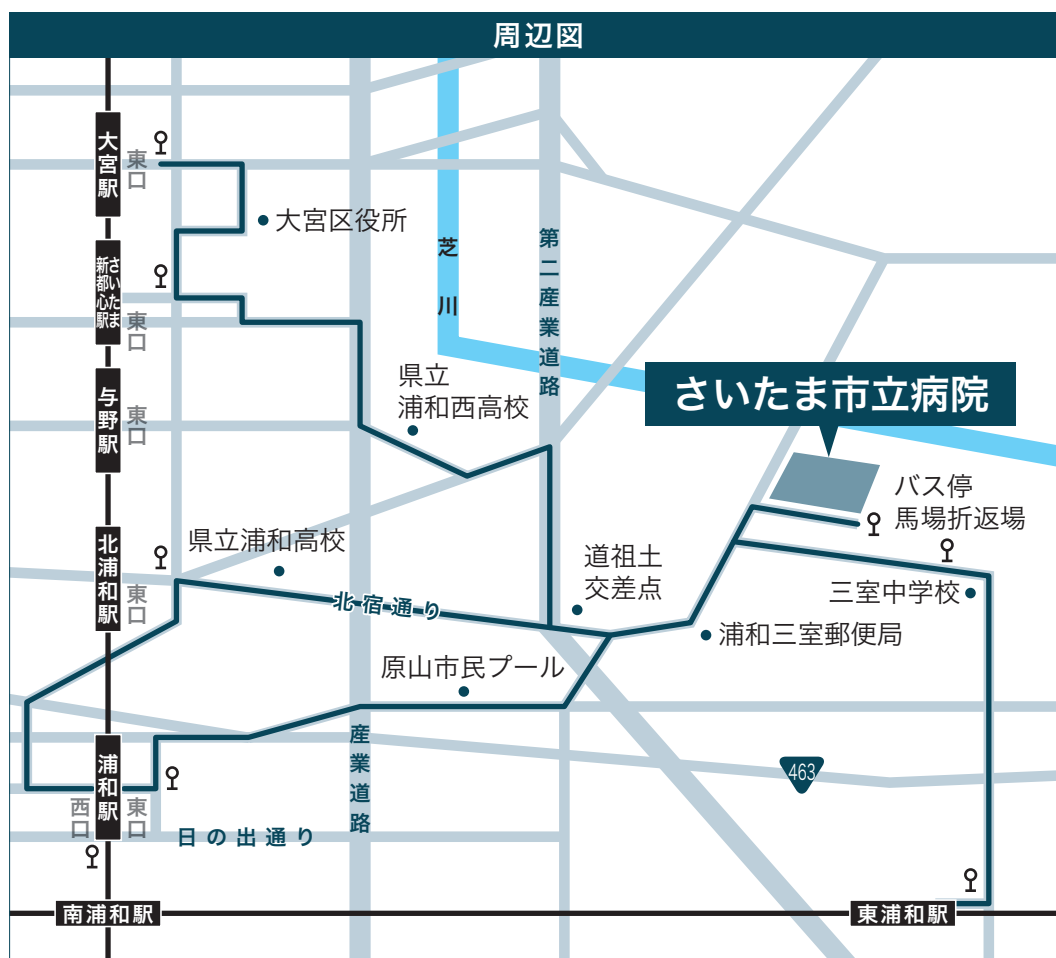
9F



8階 A 病棟：精神科身体合併症病棟  
 8階 B 病棟：感染症病棟・結核病棟



## アクセス



## ■ バスでのご来院方法

## JR 北浦和駅

東口 東武バス「さいたま市立病院」行き終点下車(約15分)

## JR 浦和駅

東口 国際興業バス「南台」行き「市立病院」下車(約20分)

西口 東武バス「さいたま市立病院」行き終点下車(約25分)

## JR 東浦和駅

国際興業バス「馬場折返場」行き終点下車(約15分)

国際興業バス「市立病院」行き終点下車(約20分)

## JR さいたま新都心駅

東口 東武バス「さいたま市立病院」行き終点下車(約30分)

## JR 大宮駅

東口 東武バス「さいたま市立病院」行き「市立病院」下車(約40分)

## ■ 車でのご来院方法

## 第二産業道路/県道1号経由

「道祖土」交差点を東へ 北宿通り 約1.6km

## 岩槻IC経由

国道122号経由 約11.1km